

10-5 仕事の場の広がり 滋賀県から全国へ①

(NPO 法人やじろべー 中澤純一)

施設の紹介

宅老所もくれんの形態

設置・経営主体	NPO法人やじろべー 宅老所 もくれん
法人開設年月日	2003年(平成15年)2月21日
施設開設年月日	2003年(平成15年)4月1日
所在市町村名	上田市
人口	約15.7万人
高齢化率	28.4%【45%超の自治会が複数存在】(平成26年4月1日現在の推計)
利用者定員数	12名
職員数	12名 介護士5名 看護師2名 ソーシャルワーカー2名 栄養士1名 事務員2名(1週間に内に2名を交代1名/週) 派遣職員3名(1週間に内を交代で1名/週)

はじめてみたら…。

みんな大喜び 小躍りするとはこういうことなんだと想うほど。

そこに、今回の“仕事の場”的お話を戴くことが出来ました。
準備段階において、私たちは「あの人に、この人にも」とアクティビティへの夢が広がっていきます。
さてさて、いざ仕事をはじめる準備をはじめると、この人は出来るか出来ないか…、失敗できないの想いから出来る人から始めようとしてしまいました。気づくと私たちはエンパワーメントを信じて言いながら実はお仕事イベントを成功させることが主眼となっており、本人にとっての働くことの意味も、心と体が一体となって内在される力出すことができる本来の意味を忘れてしまっていました。
何のための“働く”なのか。誰のための仕事の場なのか。
クライアントである利用者に教わる想いでいた。

今までの私たち・既存のデイサービスから脱却できていない私たち

私はいつも “その人のエンパワーメントを信じたケアを！”
を大切に実践してきました…。(はずでした…。)

しかし…。
それはイベントであって本当にしなければならないことは何かを考えあぐねていました。

若年性の方もできる事を一生懸命にやっています。
直接仕事に関われなくとも、仕事を眺めて笑顔になっています。
通所にどうしても繋がらない方が、今私たちのところで仕事をするために通つてきてくださいっている方もいます。
介護者である娘さんと一緒に通われ、就労の姿を見て、「こんなに生き生きとしている母を最近見たことがなかった」として「こんなにもできる事が母にはまだあったんだ」と喜ばれています。
暫く、足が遠のいていたボランティアの方もお手伝いに毎回来てくださるようになり、一緒に楽しんでいます。
「働いたお金は何に使おうか」そう訪ねると、「肉屋のコロッケを買って家族に振る舞う」と語った方がいます。
しかし、最近この方が「働いたお金は、もくれんで働く場をもらっているので、みんなで使って欲しい。ここに来ているみんなのために使いたい」と。

私たちの意識変革の必要性

今日はあの日ですね！
さあ、やりましょう！の自発的な声も。

実際に進めていくと、誰もが何らかの役割を果たそうとする。
自分の“できる事を探して”頑張ろうとする。
気づくと、私たちが進む早さよりも就労に参加されるみなさんの方が先に先へと進んでいきました。

仕事をはじめて、あらためて私たちのケアの課題として気づいたことは、
・仕事の内容についてスタッフが声をかけ過ぎていたこと。
・本人の可能性を支援するスタッフのキャバの範囲で進めようとしていたこと。
・アクティビティではなく、無意識ながらクリエーションの延長の思考であったこと。

これから働く場

近隣の病院の MSW とは病気のために働くことが困難になっている人。病気により、働く意欲が落ちてしまっている人をこの就労で認知症の人たちの一生懸命な姿から意欲がもらえるのではないか。こうした支援の仕事への興味を持って頂けるのではないか。とのお話を頂いております。
また、知的障害の方が小規模多機能型施設の利用が始まり、介護保険によって自分が働きたいとの意欲との狭間で様々な障壁があり就労に参加したいとの声もかかりました。
知的障害の分野も奥深く必要なケアとして考えなければと思っていました。
先日も「知的障害の方が65歳を超えた時の支援は高齢者分野はすんなりと受けてくれるのか？」と在宅での自立生活の支援をしている仲間から相談されました。

私たちの意識変革とその必要性

参加したいという積極的な気持ちは、どう作業活動に繋げていけるのか(例えば、どの工程ならできるか)も考えています。
人によっては障がいから出来ることがかなり限られてしまう方もいらっしゃるので、そうした視点はなおいっそう必要と考えます。

そうした考え方から、就労担当のスタッフは『例えは空の段ボール運びも、梱包用の紙を伸ばすことでも、その人が出来ることであり、やりたい意欲を發揮できる仕事だと思います』と、個別性の視点や障がいの視点の意識の変革を表現し、さらには『お仕事の日の活動以上に前もっての準備の必要性を感じ、お仕事の当日よりも準備はとても頭を使い緊張する』と、本来の支援の意味を、頭で理解していたことを実際の行動でスタッフ一同理解してはじめているところです。

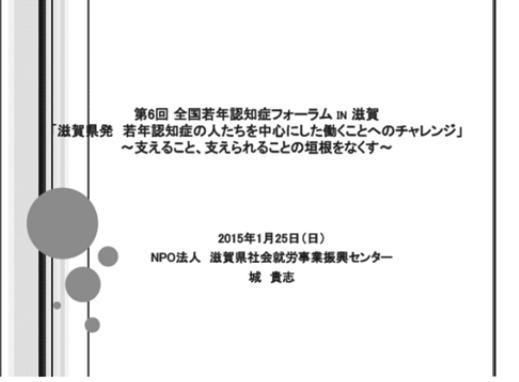
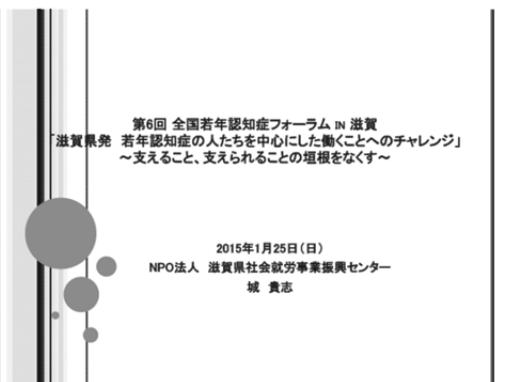
次への視点…。

私たちの活動は地域へのアプローチを主としたところがあります。
そろそろ、地域に出て行くことが宿命となってきたいるのかもしれません。
認知症カフェが、今いわれていますが、こうした仕事の場をきっかけに何らかの広がりから地域を巻き込んだものになっていかなければと思い巡らすこともあります。
地域にはまだまだたくさんの方々が自身のできることを出し切ることなく嬉しい想いをしている人がいます。
まだ見えてこないニーズや可能性の1つひとつが私たちを追いかけてきています。
私たちが出来ることは何か…。
できることがありしてきた私たちが、しなければならないことにシフトする
そうした想いでがんばっていきたいと思います。

<p>「仕事の場」の開設</p> <p>愛知県:社会医療法人 吉嶋会 いまいせ心療センター/認知症センター ワーキングデイ スマイル 小倉 紫</p>	<p>「仕事の場」の本人の感想</p> <p>—仕事—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「皆さんと話ができるうれしい」(多数) ・「仕事をだから来たいんだよ」(50代女性) ・「たくさん仕事をもらってほしい(もっと営業してきて)」(70代男性) ・「ここに来るまでは、どうやったら死ねるか?ばかり考えていました。ここに来るようになって、自分にもまだできることがあるんだと思えるようになりました」(60代女性) 									
<p>「仕事の場」との出会い</p> <p>• 説明会 第1回H26年6月20日 第2回7月25日</p> <p>• 同年8月6日(水)「もの忘れデイ(仮)」開設</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開設日(8月6日)</th> <th>現在(1月9日現在)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>登録者数</td> <td>31名</td> <td>52名</td> </tr> <tr> <td>利用者数/日</td> <td>9名</td> <td>27名</td> </tr> </tbody> </table> <p>• 対象者:当院もの忘れ外来通院中の認知症または高次脳機能障害の患者</p>		開設日(8月6日)	現在(1月9日現在)	登録者数	31名	52名	利用者数/日	9名	27名	<p>「仕事の場」の本人の感想</p> <p>—給料—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「係に『すぐ忘れる、何もできん…』と馬鹿にされていましたが、頂いた給料で何か買ってやろうかと思っていました」(70代女性) ・「靴が買いたい」(50代女性) ・「仏壇にお供えしてあります」(80代女性)
	開設日(8月6日)	現在(1月9日現在)								
登録者数	31名	52名								
利用者数/日	9名	27名								
<p>ご家族のご意見・感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「少しでもお役に立てることがあって良かったです」 ・「最初は何をやってきたのか聞いても(忘れて)教えてくれなかつたけど、今では楽しそうに仕事や昼食の話をしてくれるようになりました」 ・「ここ最近眉間にシワを寄せた顔しか見なかつたけど、ここに来るようになって笑顔が増えました」 ・「家にいるとすぐにどこかに行ってしまうけど(徘徊)、ここに来てくれている時間は安心できます」…など 	<p>「もの忘れデイ」…</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「こんな言葉聞きたくない」 ・「この言葉は嫌い」 ・「見るのもいやだ」 <p>投票の結果—「ワーキングデイ スマイル」へ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加者→「従業員」「利用者」「スタッフ」…「出勤者」へ ・職員(N,OT,CW)→「先生」? 									
<p>見学の方のご意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ここにいる人はほんとに病気(認知症)なんですか? 何も困っていないように見えますけど…」(本人・家族) ・「少しでも笑顔で過ごしてほしいので参加させたい」(家族) 	<p>今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「仕事の場」としての提供方法の見直し ・地域との連携(介護保険サービスへの移行) ・スタッフのスキルアップ ・「仕事の場」の広がり 									

10-6 働くことでつながった仲間

(NPO 法人滋賀県社会就労事業振興センター 城 貴志)

 <p>「滋賀県発 若年認知症の人たちを中心とした働くことへのチャレンジ」 ～支えること、支えられることの垣根をなくす～</p> <p>2015年1月25日(日) NPO法人 滋賀県社会就労事業振興センター 城 貴志</p>	<p>「もの忘れカフェ×地域若者サポートステーション」</p> <p>過去、男2名、女6名の8名が5回にわたり参加。</p> <p>若年認知症就労継続サポート事業 (伸び伸びの会) 藤本クリニック内</p>  <p>長年引きこもり気味で就労経験もなく、特に人と関わることが苦手</p> <p>人の関わり、コミュニケーションが苦手で、最初は表情が硬かった方も伸び伸びの会の参加者の方から声をかけていただき、緊張感も少しづつ和らいできている。この場をきっかけに次にステップアップ出来れば…。</p>
<p>働き・暮らし応援センター×もの忘れカフェ</p> <p>企業就労を目指している 発達障がいのあるAさん。 作業所を利用経験もあるが 人間関係を構築できずに短期間で 利用中断。</p>  <p>これまで働いた経験もないし自信がないなあ。いろんな人と関わることができる機会があればいいのになあ。</p> <p>伸び伸び会での仕事を通じ、世代を超えた人たちの関わりの経験ができるAさん。 社会人の先輩として若い世代であるAさんにいろんなことを教えてくれる伸び伸び会のメンバーさん。働くことを通じてお互い得られる大事な何かがある。</p> <p>自分のことを待ってくれている人がいる、あてにされる、居場所と役割</p>	<p>「働く」ということを少し考えてみました。</p> <p><個人的な視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 所得を得るため…稼ぐ ○ 役割を果たし能力を発揮し、心理的満足を得る源泉。…あてにされる ○ 達帯感、達成感、責任感…人との繋がりから生まれる自分自身の成長 <p><社会的な視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会の存続や発展に必要な活動を分担して役割を遂行すること。 ● 働くことにより社会の存続や発展に必要な資金(税金)を納めること。 <p>障害者、高齢者、一人親家庭、外国人、若年認知症、誰にとっても「働く」ことの大切さは一緒</p> <p>「働く(はたらく)」…「はた」(周り)を“らく”にする。 → “はた”=地域、社会へのお役立ち。 地域、社会での自分の居場所・役割</p> <p>仕事していく、うれしいときは…「ありがとう」と声をかけられ、自分の仕事が相手や地域、社会の役に立っていると実感できるときなのではないでしょうか？</p> <p>お金はもちろんのこと、人の役に立つ、一人ではなく他者や地域がある。</p>
 <p>「滋賀県発 若年認知症の人たちを中心とした働くことへのチャレンジ」 ～支えること、支えられることの垣根をなくす～</p> <p>2015年1月25日(日) NPO法人 滋賀県社会就労事業振興センター 城 貴志</p>	<p>「もの忘れカフェ×地域若者サポートステーション」</p> <p>過去、男2名、女6名の8名が5回にわたり参加。</p> <p>若年認知症就労継続サポート事業 (伸び伸びの会) 藤本クリニック内</p>  <p>長年引きこもり気味で就労経験もなく、特に人と関わることが苦手</p> <p>人の関わり、コミュニケーションが苦手で、最初は表情が硬かった方も伸び伸びの会の参加者の方から声をかけていただき、緊張感も少しづつ和らいできている。この場をきっかけに次にステップアップ出来れば…。</p>
<p>働き・暮らし応援センター×もの忘れカフェ</p> <p>企業就労を目指している 発達障がいのあるAさん。 作業所を利用経験もあるが 人間関係を構築できずに短期間で 利用中断。</p>  <p>これまで働いた経験もないし自信がないなあ。いろんな人と関わることができる機会があればいいのになあ。</p> <p>伸び伸び会での仕事を通じ、世代を超えた人たちの関わりの経験ができるAさん。 社会人の先輩として若い世代であるAさんにいろんなことを教えてくれる伸び伸び会のメンバーさん。働くことを通じてお互い得られる大事な何かがある。</p> <p>自分のことを待ってくれている人がいる、あてにされる、居場所と役割</p>	<p>「働く」ということを少し考えてみました。</p> <p><個人的な視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 所得を得るため…稼ぐ ○ 役割を果たし能力を発揮し、心理的満足を得る源泉。…あてにされる ○ 達帯感、達成感、責任感…人との繋がりから生まれる自分自身の成長 <p><社会的な視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 社会の存続や発展に必要な活動を分担して役割を遂行すること。 ● 働くことにより社会の存続や発展に必要な資金(税金)を納めること。 <p>障害者、高齢者、一人親家庭、外国人、若年認知症、誰にとっても「働く」ことの大切さは一緒</p> <p>「働く(はたらく)」…「はた」(周り)を“らく”にする。 → “はた”=地域、社会へのお役立ち。 地域、社会での自分の居場所・役割</p> <p>仕事していく、うれしいときは…「ありがとう」と声をかけられ、自分の仕事が相手や地域、社会の役に立っていると実感できるときなのではないでしょうか？</p> <p>お金はもちろんのこと、人の役に立つ、一人ではなく他者や地域がある。</p>

リレー報告の後、実践報告の“大トリ”として、若年認知症地域ケアモデル事業の 5 つの事業について、3 カ年の一連の活動内容をまとめた DVD「若年認知症の人を中心とした『仕事の場』」が放映された。

若年認知症就労継続支援事業を中心に、5 つの事業それぞれが、どのような位置付けで、どのような目的で実践され、どのような効果を挙げ、また挙げつつあるのか、を丁寧に説明する構成となっている。実践の現場からの活動報告に加えて、このような、事業全体を概観し、具体的に見て、感じることができる記録として残すことにより、本事業の目的の一つでもある、県内外に広く浸透する仕組みの基礎を作ること、また、一過性で終わることなく継続的な枠組みとして定着していくこと、のために大きな役割を果たすものと考える。

本 DVD の制作にあたって、若年認知症地域ケアモデル事業の活動現場を根気よく取材、記録を重ね、素晴らしい素材として編集・提供頂いた、大杉成聖さん、報道制作部 木村有紀さんをはじめ、びわ湖放送の皆様に、この場を借りて御礼を申し上げる。

以下では、DVD の流れに沿って、映像素材をキャプチャしたものを持載する。

タイトル



若年認知症の

本人の声

今、仕事を全部なくして
しまうことはできんのや

自分のした仕事が評価され、
少しでも対価をもらいたいながら、
何か社会の役にたちたい

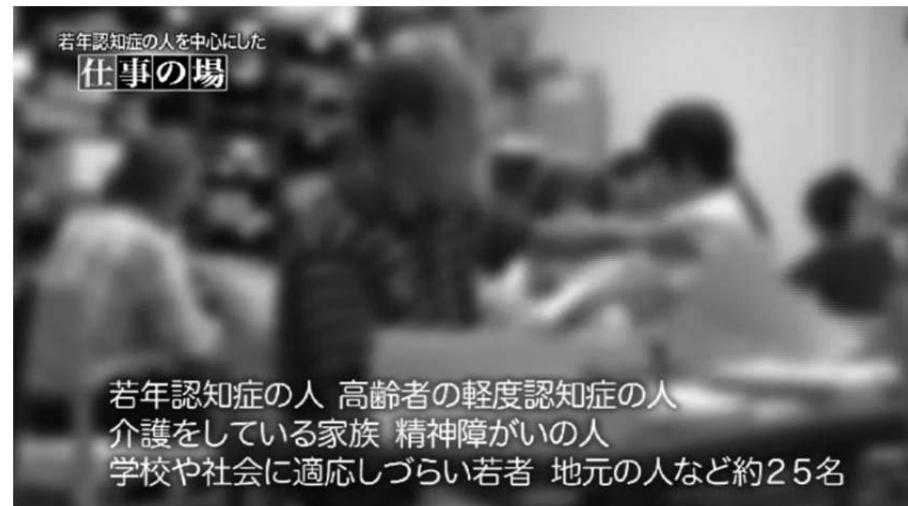
「仕事の場」で
請け負っている
仕事内容①



「仕事の場」で
請け負っている
仕事内容②



参加している人
や人数の紹介



実践の中から
自然と生まれる
いろいろな工夫



進行性の病気
ゆえに、"その先"
についても考える



「仕事の場」の次も
一緒に考え、一緒
にいられる道を



若年認知症特有
の課題にも きちんと
向き合う



専門職、関係者も
一緒に考えて、
一緒に進む



力強いリーダー
“かかりつけ医”的
参加が事業の要



介護家族の支援
も重要な柱となる



家族支援にも様々
な工夫を施す



専門職も、日々の
学習、実践を積み
重ねる



若年認知症では
発症期の職場の
理解が不可欠



県内外に広がる
仕事の場と仲間



県内では、3つの
拠点が誕生
(大津、長浜、高島)



「仕事の場」の目的
の再確認する



若年認知症の人を
中心に、「仕事の場」
の役割を考える



広がる拠点・仲間も
大きな協力者となる



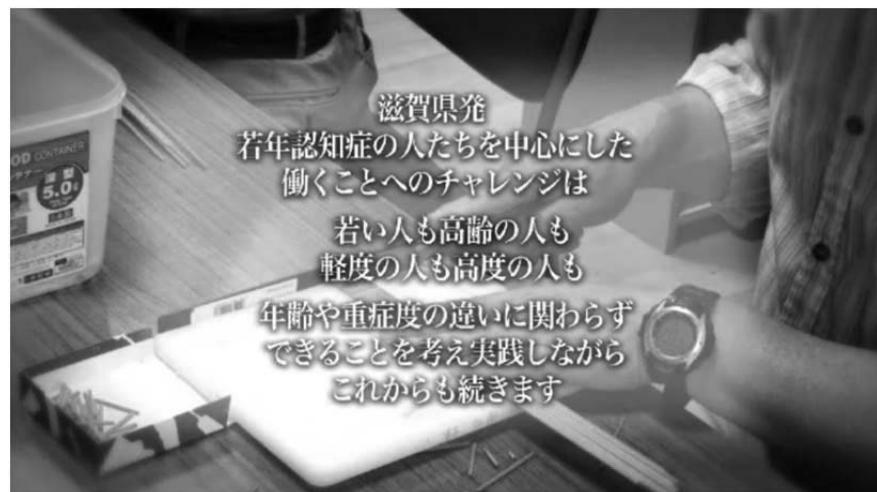
発見や工夫は、日々の実践から生まれ、気付くことが大切



県知事からは、「この取り組みは非常に重要であり、継続・充実で支援強化したい」とのコメント



5つの事業の成果が若年認知症の人を中心へ継続されることを期待して



2.4 若年認知症研修会事業

若年認知症の人および家族を支援する関係者に対して、相対的に長期間の支援、また、その特徴から特有のケア・支援などを必要とする若年認知症についての知識の向上を図り、若年認知症の人と家族が住み慣れたところで安心して生活できることを目的に研修会を開催した。

本事業 3 カ年で、地域一般、行政を対象とした啓発研修、就労継続支援の欠かせない当事者である企業に対する企業研修、そして、若年認知症を含む認知症ケアの底上げを目指した専門職研修を実施した。

2.4.1 啓発研修

①若年認知症研修会（H24.8.25、ピアザホール）

事業の初年度は、まず、地域一般、専門職、行政、そして若年認知症の人および家族も含めて、若年認知症のこと、その支援のこと、課題や問題点など、広く“知っていただく”ことを目的に、若年認知症研修会を実施した。

また、当日資料として、若年認知症地域ケアモデル事業の 5 つの事業の内容や進捗状況などを編集し、本事業の取り組みについても、“知っていただく”機会とした。

図表 11 若年認知症研修会資料

11-1 概要（全体プログラム）

滋賀県若年認知症研修会の目的について

医療法人 藤本クリニック 院長 藤本 直規

プログラム

●受付開始・開場 ----- 12時～

●開会あいさつ
13時00分～13時10分 医療法人藤本クリニック 院長 藤本 直規 P3

●特別講演【若年認知症とともに生きる】
13時15分～14時15分 大島山記念病院 精神科・物忘れ外来 部長 高橋 正彦 先生 P4

（休憩）14時15分～14時30分 -----

●特別講演【若年認知症家族の思い～地域サポーターと共に～】
14時30分～15時30分 若年認知症家族会「彩星(ほし)の会」代表 干場 功 氏 P6

（休憩）15時30分～15時40分 -----

●ディスカッション
15時40分～16時25分 高橋 正彦 先生・干場 功 氏
藤本 直規／奥村典子(医療法人藤本クリニック) P13

●閉会 16時30分

もしかしたら若年認知症ではないかと心配されている方へ。
若年認知症と診断を受けたけれど、受けられる支援などがわからずいる方へ。
そして、若年認知症を少しでも理解して、自分たちにできることをしようと考えてくださる皆さんへ。
この研修会はそんな方たちへ、病気への理解を深め、受けられる支援について知っていただくために企画させていただきました。

●若年認知症とは
若年認知症とは、65歳未満で発症する認知症を言います。高齢者の認知症と、病理学的に違いがあるわけではないと言われていますが、若年認知症は年齢が若いため、社会的、家庭的問題が多く抱えており、就労の問題など、多くの支援が必要とされています。働き盛りの世代ですから本人だけでなく、家族の生活への影響が大きいにも関わらず、その実態が明らかではありません。
例えば、配偶者が介護する場合には、配偶者自身も仕事が十分できなくなり、身体的にも精神的にも大きな負担を強いられることになります。また、発症して診断がつくまでにかかる時間は高齢者より長くかかり、いくつかの医療機関を経てやっと診断されることがあります。

●他の疾患と間違われやすい
若いがゆえに、認知症の症状が現れていても「うつ病など別の病気だろう」と判断されがちです。少しでも早く専門医で診断を受け、治療を開始することが大切です。

●若年認知症の人を支えるために
若年認知症に関する問題は、家庭や社会で中心的な役割を果たしている人という意味で、高齢者の認知症より深刻かもしれません。診断が遅れることにより、治療や支援体制に遅れが出てしまうと、せっかくの「本人に残されている能力」を生かすことができなくなります。本人だけでなく、家族を支えるサポート体制など、医療、福祉、行政、企業、地域が手を携え、さらに充実させていきたいものです。

11-2 特別講演① 「若年認知症とともに生きる」

【若年認知症とともに生きる】

大倉山記念病院 精神科・物忘れ外来 部長

高橋 正彦 先生

■ 高橋正彦 先生 路歴
大倉山記念病院 精神科・物忘れ外来 部長
高知県出身。
平成元年高知医科大学医学部卒業。専門は認知症。
高知医科大学大学院で医学博士を取得後、平成9年から平成13年までスウェーデンに留学し、認知症のケアを研究。
東京都老人医療センター物忘れ外来、杏川大学医学部精神神経医学講座、仙台市立病院認知症疾患医療センターなどを経て、本年5月より現職。

65歳未満に発症する認知症、いわゆる若年認知症はさまざまな点で老年期に発症する認知症とは異なる特徴をもち、従って、取り組むべき対策も大きく異なっている。

若年認知症の特徴としては、

- ①患者数が少ない。
- ②原因疾患が多様である。
- ③患者の身体的・精神的エネルギー・レベルが高い。
- ④患者本来の社会的役割が大きい。
- ⑤経済的問題が大きい。
- ⑥未成年家族に対する支援が必要である。

といったことが挙げられる。

若年認知症の患者・家族に対する支援を行う上で、医療・行政・福祉各担当部署は、この特徴をよく理解したうえで、個別のケースに応じた柔軟かつ適切な支援を行わなければならない。

認知症の症状は、中核症状と行動心理症状（周辺症状）に分けられる。本講演では、中核症状に対する治療の現状、行動心理症状（周辺症状）の起こるメカニズムとその治療・予防のあり方を、心的外傷（トラウマ）、プライミング、記憶システムといった心理学的用語を用いてわかりやすく解説しながら、若年認知症を持ちながら生きる患者・家族を支援するうえでのあり方を概説する。



特別講演② 「若年認知症家族の思い～地域サポーターと共に～」

若年認知症家族会



彩星の会とは？

若年認知症患者と家族を対象とした会です。

若年認知症とは？

18歳から64歳までに発症した認知症性の疾患を総称しています。日本全体で約8万～10万人の患者がいます。

いわゆる認知症とは違うのですか？

老年期認知症とは症状がやや異なります。また、若いめ介護・治療期間が長期に渡ります。患者さんは本人が家を支える心力であり、労働者として社会的にも大きな貢献を負っています。そのため、家庭的にも社会的にもその発症が大きな影響を及ぼします。

制度やサービスがわかりません

まず、お電話でご相談ください。医療機関・福祉施設・自宅での対応などのアドバイスを致します。また、彩星の会は定例会でも家族との情報交換、医師やソーシャルワーカーなど専門職が悩みにお答えする時間があります。

設立

*平成13年9月

（本会の目的）

- *患者本人と家族への支援をします
- *若年認知症の理解を深める活動を行います
- *若年認知症の福祉の充実を図る活動をします
- *若年認知症の治療と介護の向上を図ります

介護のため定例会に行けないのですが？

定例会は作業療法士やボランティアによる患者さん同士との活動を行っています。ご家族も安心して定例会に参加できるようなサポート体制があります。また電話でのご相談もあります。

会員は家族だけですか？

患者ご本人、ご家族以外に、賛助会員として医師、作業療法士、ソーシャルワーカー等医療・福祉専門職、NPO団体などが入会してご本人やご家族をサポートしています。

どんな活動をしているのですか？

奇数月第4日曜日（13：00～16：00）に定期会と並行して（場所未定）お預かりサービスをやっています。

患者・家族・専門家・ボランティアなどが集まってレクリエーション・情報交換・交流会・相談などを行っています。

ぜひ一度、見に来られませんか？



若年認知症家族会 彩星の会 ★★

入会方法

家族会事務局へご連絡ください。申込書を送付いたします。

年会費

*家族会員：患者を抱える家族	5,000円
*賛助会員A：本会の事業に賛同する医療・福祉関係者	5,000円
*賛助会員B：本会の事業に賛同する個人	3,000円
*本会の事業に賛同する団体	10,000円
*準会員：学生、その他（役員会が認めた人）	1,000円

相談受付

家族会事務局へお電話ください。

（相談日）毎週月、水、金曜日（10：30～17：00）

TEL 03(5919)4185 FAX 03(5368)1956

*上記以外の日はファックスでお願いします。

若年認知症に関する研究会事務局

〒949-7302 新潟県南魚沼市浦佐4115

南魚沼市立ゆきぐに大和病院内

TEL 025(777)2111 [直通] FAX 025(777)3853

Eメール inchou@yukigunihp.jp

彩星の会家族会事務局

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-29-5-801

TEL 03(5919)4185 FAX 03(5368)1956

携帯 080-5005-5298 [直通]

Eメール hoshinokai@star2003.jp

ホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~star2003/>

11-3 パネルディスカッション 「若年認知症を理解し みんなで支えていくために」

【若年認知症を理解し みんなで支えていくために】

高橋 正彦 先生・干場 功 氏
藤本 直規／奥村 典子（医療法人藤本クリニック）

「若年認知症を理解し、みんなで支えて行くために」

滋賀県が2005年に設置した認知症に関する相談センター「もの忘れサポートセンター・しが（藤本クリニックに委託）」には、年間、400件前後の様々な相談が寄せられています。また、現地訪問相談という、事業所や施設にスーパーバイザーが出て向いて一緒に課題解決に取り組むというしくみもあります。

ところで、それらの相談活動の中で、若年認知症に関する相談は年々増えてきており、また、ケアスタッフの人たちから、「若年認知症の方へのケアは難しい」という声が多く聞かれます。しかし、最近では、認知症という病気の症状を理解し、本人の声に耳を傾け、その気持ちを理解して行うケアの原則は、若年者と高齢者と何ら変わりはないと言われています。

ただ、認知症ケアに答えはなく、壁にぶつかることも多く、スタッフのメンタルサポートも必要とされます。そこで、自分一人で抱え込まず、事業所や施設だけでも抱え込まず、互いに相談し合うことが求められています。

滋賀県では、2012年から、若年認知症の人とその家族を地域で支えられるように、若年認知症対策として、「若年認知症地域ケアモデル事業」を開始しました。その事業の一つである「若年認知症支援ネットワーク会議」での議論で、いくつかの課題が挙げられましたが、このディスカッションでは、本日のお二人の講師先生方にアドバイスを頂きながら、これらの課題を整理していかたいと思います。

そして、若年認知症に限らず高齢者も含めた認知症に関する医療とケアの底上げを、皆さんと一緒に取り組みましょう。



11-4 参考資料 「若年認知症地域ケアモデル事業について」

平成24年度若年認知症地域ケアモデル事業

■事業目的

若年認知症の方は社会や家庭において本人の扱い役割は大きく、生活の質の維持や就労、家庭への影響等問題も大きく深刻であるが具体的な支援策がない状況にある。そこで、若年認知症の人とその家族を身近な地域で支えられるよう支援対策の充実を図ることを目的とする。

■事業主体 滋賀県

■事業実施機関 医療法人 藤本クリニック

■事業内容

1. 若年認知症就労継続支援事業

●事業の内容

- 若年認知症就労継続支援センターの設置
- ・内職業者および民間企業から軽作業を受注し、若年認知症本人が作業を行うことを支援する。
- ・若年認知症本人および若年認知症本人を取り巻く関係者が、支援会議を開催することにより、支援の方策を検討することで、地域で若年認知症の方を支える体制の構築を図る。

●支援の対象ケース

県内の若年認知症本人

●相談の方法

- ・就労継続支援
- ・心理教育
- ・支援会議

2. 本人および家族支援事業

若年認知症の方および家族が、孤独感や不安感などの軽減を図りながら、自らの力を発揮できるようアサポートの場として本人および家族交流会を実施する。

・回 数：6回

・対象者：若年認知症の方および家族

3. 若年認知症研修会事業

若年認知症の方および家族を支援する関係者に対し、若年認知症に関する知識の向上を図り、若年認知症の方や家族が住み慣れたところで安心して生活できることを目的に研修会を開催する。

・回 数：1回

・対象者：若年認知症の方および家族、住民、医療・介護・障害・保健・行政関係者、民間企業等関係者

4. 若年認知症ケアモデル事業実践報告事業

若年認知症就労継続支援における取り組みを、若年認知症の方に関わる、医療・介護・障害福祉関係者、行政関係者、民間企業関係者が学び、若年認知症の方を支える支援体制の充実を図るため、認知症ケアモデル事業実践報告会を開催する。

・回 数：1回

・対象者：若年認知症の方および家族、住民、医療・介護・障害・保健・行政関係者、民間企業等関係者

5. 若年認知症就労継続支援ネットワーク事業

・若年認知症就労継続支援ネットワーク会議の開催

・若年認知症就労継続支援センターを通じて、医療機関、介護・障害福祉関係者、行政、民間企業等が地域で認知症の方を支える仕組み作りについて検討する。

・回 数：5回

・構成員：医療関係者、介護関係者、障害福祉関係者、行政、民間企業等の関係者

